

ご挨拶 「10周年を迎えて」

大平 弘正

教授就任 10 周年にあたり、ご挨拶を申し上げます。

この度は同門会ならびに講座の皆様には、記念祝賀会を開催頂き心から感謝申し上げます。記念講演会では、筑波大学 住田孝之先生、金沢大学 金子周一先生から素晴らしいご講演を賜り感謝申し上げます。また、久留米大学留学時ご指導を頂きました谷川久一先生、第二内科入局後十三年間ご指導頂いた粕川禮司先生、お二人の恩師の先生には、身の引き締まるお言葉を賜り、改めて初心にかえる思いです。また、日ごろ大学で大変お世話になっております総括副学長 阿部正文先生、医学部長 錫谷達夫先生には過分なご祝辞を賜り、大変ありがとうございました。

振り返りますと、この十年間、本当にあつという間でした。2007 年 5 月偶然にも粕川先生と同じ 44 歳で教授になりましたが、とにかく就任当初は、混乱した医局体制の再興に力を注ぎました。皆様のおかげでやっと地に足が付きこれからという時に、ご存知のように 2011 年 3 月、就任 5 年目の年に東日本大震災と原発事故が発生し、また振出しに戻ってしまったという気持ちでした。しかし、大学に在籍していた医局員 25 名が全員、福島に踏み止まって残ってくれたということが大きな心の支えとなって、ここ 5 年間を歩んでこれたと思っています。この 10 年間、人事においては教室出身の関根英治先生が免疫学講座の教授、講座から入澤篤志先生が会津医療センター消化器内科の教授、渡辺浩志先生が講座の主任外教授、内視鏡診療部から小原勝敏先生が寄付講座の教授、引地拓人先生が内視鏡診療部部長に就任しておられ、医局では入局者数は 36 人、学位取得 21 名、英文論文は約 150 編と十分な数とは言えませんが、この厳しい環境の中、限られた人・時間の中で昼夜惜しみなく努力してきてくれた医局員には、敬意を表したいと思います。

さて、10 年前の就任祝賀会での挨拶文を改めて読み返してみると、2 つの誓いをしていました。一つ目は診療について、高度で先進的な医療を提供しながらも、臓器に特化せず診断・治療することが重要であり、第二内科の伝統とも言える「全身を診る」「病気を診ず人を診る」という基本姿勢を忘れずに人材育成に努めて行きたい。二つ目は研究については、粕川先生からの「研究にはオリジナリティーが重要であり、人真似で無い研究をなさい」という教えを肝に銘じ、診断・治療・予後などの意思決定の根拠となる臨床研究および基礎研究を行っていきたいということでした。一点目の診療については、肝臓、上部消化管、胆膵、大腸グループ、そしてリウマチ膠原病については今年 8 月から右田教授が赴任され、専門性を極めながらも「内科医」とであるという基本的な姿勢は堅持しつつ、幅広く診療を実施しており、この約束は果たせているように思います。一方、研究に関しては、まだまだ十分な業績を挙げられていないと反省しております。

実は、この時もう一つ、「ゆっくり歩けば、遠くに行ける」：すなわち、『自分に与えられた道を焦らず、周りに心をうばわれること無く、一步一步着実に進むことによって、より遠くへ辿り着けると信じている』と話しております。この10年間、もしかすると、もう少し早く歩く必要があったかもしれません。

これから残り12年、長いようであっという間に過ぎていくように思います。世の流れに取り残されぬように、後半を折り返したいと思います。今日を境に新たな気持ちで医局の先生方と力を合わせ、講座ならびに福島医大の発展、本県の医療充実に努めていきたいと思います。当面の講座の柱は、消化器と免疫、消化器がんですので、今後は関連する基礎・臨床研究により一層力を注いでいきたいと考えております。今後ともご支援・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(2016年10月1日 祝賀会ご挨拶)